

講義コード	519401401	
講義名	幼稚園実習I	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	山本 詩織	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

この実習では、見学実習・観察実習・参加実習を中心に行う。

（見学実習）

幼稚園について、どのようなところで、どのように子どもたちが生活しているかを概観する。

（観察実習）

年少・年中・年長組の子どもたちの生活はどのようになっているか、また、発達の違いについて気づく。一つのクラスに配属されることによって、一日の生活の流れや、個々の子どもの様子や、保育者の子どものかかわりについて客観的に観察する。

（参加実習）

見学・観察実習をふまえて、子どもたちの生活の中に入っていき段階。担当の保育者の助手的な役割を果たしながら、子どもの実態や、保育者の役割について体験を通して学ぶ。

以上3点の実習を総合的に行い、実践力を身に付ける。

授業の到達目標及びテーマ

幼稚園実習の意義は、幼稚園の教育・施設設備の特質やあり方、さらに保育内容について深く研究し、把握することにある。

また、幼児教育に関する理論・知識・技能を実践にうつす機会であり、子どもと生活を共にすることによって、子どもへの愛情、教育的熱意、教育の喜び、難しさなどを体得する重要な経験となるものである。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「「9.理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている」を達成するための科目です。

授業計画表

--	--

授業時間外の学修

次の3点を求める。

- (1) 実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておくこと。
- (2) 実習で求められる教材研究を日々行い、実習に対する心構えを養っておくこと。
- (3) 日頃から幼児教育に関するニュース等に関心を寄せておくこと。

実務経験の有無

実践的教育から構成されている 例：教育実習・インターンシップ等

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
実習態度	保育者としての適性を感じられ、現場での実践に必要なとされる協調性と協働性を十分に発揮しながら積極的な態度で実習が出来ている	保育者にふさわしい人間性を持ち、積極的な態度で実習が出来ている	勤務態度や積極性、協調性、協働性等の保育者に必要とされる資質において、その実習態度から軽度な課題がある	勤務態度や積極性、協調性、協働性等の保育者に必要とされる資質において、その実習態度から明らかに支援を必要とする判断できる
組織理解	実習施設に関して、事前学習の知識と実習での体験を結び付け、保育者として総合的に理解することが出来ている	実習施設に関する総合的な理解が出来ている	実習施設に関して理解しつつあるが、体験からの考察が不十分である	実習施設に関する理解が不十分であり、支援をしながら十分な理解を目指す必要があると判断できる
利用者理解とかわり	事前学習の知識をもとに、積極的な参加を通じてかわりや記録による豊かな考察により、利用者の実態や課題を考察することが出来ている	参加を通じて、かわりや記録から利用者の実態や課題を考察することが出来ている	参加を通じて、かわりや記録から利用者の実態や課題を考察しようとする態度はあるが、不十分である	利用者の実態や課題を考察する上で、支援を必要とする課題があると判断できる

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度		

レポート	50%	課題レポートを課す
その他	50%	実習先からの評価や実習日誌記述を評価する

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
	その都度解説、講評する	

ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用 メール等の活用</p>
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
<p>コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用</p>	<p>実験観察・実習</p>	<p>授業後レポート</p>

教科書

特になし。

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。
内閣府・厚労省・文科省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015年。

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

1) 実務経験のある教員
該当あり。

研究室（訪問先等）

花田：231研究室
山本：228研究室
井上：229研究室
横井：225研究室
直接研究室を訪ねてください。

電話番号

(代)028-667-7111

成績評価法

実習園の評価や事後レポート等から総合的に評価する。
